

◆特集 平和を求める女性たち

『はだしのゲン』 平和ノート復活をめざして

講談師 神田 香織

『はだしのゲン』を削除に抗議

昨年は私の代表作『はだしのゲン』が殊の外注目を集めました。それは安倍政権から露骨に憲法改悪、軍拡増税に舵を切った政府に対する国民の憤懣が表面化したとも言えます。

2023年2月半ば、広島市教育委員会が小学3年の平和ノートから『はだしのゲン』を削除すると発表したこと端を發します。その理由は被爆の実態に迫りにくいというもので、一つは身重で病気の母に栄養をつけさせたいと池の鯉を盗むシーン。わけを聞いた家の主人が一匹持たせてくれる、ホロツとくるいいシーンですが、「盗み」は良くない、と。もう一つはゲンが浪曲を喰るシーンで「浪曲」について子どもたちに説明するのが大変という、全く説得力のない説明でした。私は代表作が削除されるというのでびっくり、すぐにSNSで発信しました。『はだしのゲン』削除問題について一連の騒動

を振り返ってみたいと存じます。SNSのコメントは以下のような内容でした。

この度の広島市教育委員会の、平和教育委員会から『はだしのゲン』を外すという報道には大変驚くと同時に憤りを感じております！ 被爆の実態に迫りにくい、とのことですが、逆です。被爆の実態をリアルに表現、自分の身に起きたらと思うと、想像させる力がある漫画だからこそ、世界中で読まれているのです。ウクライナ戦争でロシアは核兵器の使用に言及した今だからこそ、ますます『はだしのゲン』は平和教育に欠かせないと思います。

また、浪曲の説明が大変で時代に合わないということですが、浪曲は日本の三大大衆話芸の一つ、その時代の空気がよくわかるし、ついでに講談についても子ども達に教えて欲しい、戦争を通じて大衆話芸や戦時中の食にも触れる、平和教育のテキストとして『はだしのゲ



講談師 神田香織さん

「チェルノブイリの祈り」など独自講談を次々発表、講談の新境地を切り開き語り続けている。2012年多田瑤子反権力人権賞を受賞など多数受賞。また、著書も多数あり。

ン』は最適です。教育委員会には再考して欲しいです。多くの「いいね」をいただきました。

『講談』と『はだしのゲン』との出会い

さて、講談『はだしのゲン』は、サイパン玉砕の戦跡を見たのがきっかけで、1986年8月に国立演芸場で産声をあげました。私が舞台俳優を目指していた頃、発声法の勉強のために二代目神田山陽師匠の元に通い始

めたのが講談との出会いです。独特の力強い発声法に惹かれ、一年後には講談協会に所属し前座修業に。3年間の修行を終え、プロとしてスタートする「二ツ目」に昇進した時、友人たちとサイパンへ遊びに行きました。バンザイクリフなど戦跡を観光する中で「戦争」をテーマに講談を作ろうと思いい立ちます。帰国後に沖繩、広島、長崎と戦跡を巡り原爆資料館の売店で漫画『はだしのゲン』と再会したのです。

少年ジャンプに『はだしのゲン』が連載されてから昨年で50年。子どもの頃この漫画を見てドキドキした記憶が蘇りました。全巻買い求めて一気に読み、戦争、原爆の悲劇を力強く元気に訴える作品はこれだ！と確信。当時新座市在住だった中沢啓治氏宅を訪ね、上演の許可をいただいて以来、38年語り続けております。38年前は戦争、原爆は過去のことでした。それが今はなんと戦争が身近になってしまったことか。

ウクライナ戦争を契機に日本はこの機を逃すまい、とばかりに南西諸島にミサイル配備など本格的に戦争準備に入ってしまった、昨秋から始まったイスラエルのパレスチナ攻撃では、3万人以上もの命が奪われ、子ども達も虫けらのように殺されています。本来なら憲法9条を持つ我が国が国際社会に「停戦」を訴えるべきなのに、と

◆特集 平和を求める女性たち

思うと忸怩たる思いです。

『はだしのゲン』緊急講談会

話は戻ります。削除の理由もはっきりしない中、私は広島の方に『はだしのゲン』がいかに平和教育にふさわしいか、講談を聞いて欲しい、そして削除を撤回して欲しいと、広島公演を思いつきます。

たまたま広島県三次市にZoom講談教室の生徒がいて、彼と「教科書問題を考える市民ネットワーク・ひろしま」（略「教科書ネット」）が中心となり、削除撤回を求める電子署名とともに、緊急講談会を企画してくれ、3月4日に決定。ほぼ満席の120人が参加してくれ、新聞、TVの取材が入り、関心の高さが伺われました。

クローズアップ現代

なぜ削除に到ったか。8月10日に放送されたNHKのクローズアップ現代『はだしのゲン』はなぜ消えた」によると「教員以外のメンバーの改訂会議で、会長と思しき人物の発言により削除を決めたいところか」と説明されています。その理由は「どんなところから見ても耐えうる教材」「どこからも批判されない方がいい」「全てに役立つもの」というのは何の役にも立たな

い」「使命をおびてつくり出す側はそういうところを排除していかねばならない」というもの。これらの理由はどれもこれも何を言いたいのか、私には理解不可能でした。その会長と思しき人物は日本会議に属し「高齢で記憶が曖昧だから」という理由でNHKの取材に応じませんでした。

電子署名、急増

さて『はだしのゲン』削除撤回を求める電子署名は緊急講談会の4日の段階でまだ3000筆ほどでした。それがSNSで拡散されて市教育委員会に提出した3月22日には5万5000筆まで膨れ上がりました。その翌日、今度は日本会議を中心とした市民団体が「削除に賛成」の文書を市教委に提出。1週間前の3月16日も同様の文書を提出していますので短期間に2度も提出、どうしても読ませたくないという強い意志が窺われます。

大阪でも緊急講談会

広島に続き大阪でも4月1日に緊急講談会が開催されました。大阪の書店「隆祥館」二村知子店主が企画してくれたのです。会場のドーンセンターの客席には『教育と愛国』の監督斉加尚代さん、映画に出演した教師、

平井美津子さん。『子ども脱ひばく裁判』の水戸喜代子さん、原爆絵本『おこりじどう』の絵を描いた四國五郎さんの長男四國光さん、映画『はだしのゲン』涙の爆発―』で隆太役を演じた方や、原発事故で福島から大阪に移住した森松明希子さんも来てくれました。

サミット前にもう一度広島で

大阪公演の翌日の4月2日、たまたまTBSの報道特集の特任記者、金平茂紀さん、朝日新聞記者の青木美希さんと会う機会があり大阪公演の報告をしたところ、金平さんはこのままサミット開催を待つことに忸怩たる思いがあったようで、サミット直前に広島で行動を起こそうという事に。早速緊急講演会の時の「教科書ネット」に連絡し、会場を押さえ、ゲストスピーカーに声をかけ、急遽5月17日午後6時から弁護士会館ホールで開催の運びとなったのです。

サミット直前イベントも、参加者が200人を超え大盛況でした。金平茂紀さんの挨拶、青木美希さんの経過報告に続き、20分間の『はだしのゲン』ダイジェスト版から休憩なしでトークに入り、3時間もの長丁場！ほとんど帰る人もなく、サミット直前ならではの熱い思いが結集した集会となりました。元広島市長の平岡敬さ

ん（95歳）は「一貫して戦争や核抑止を否定してきたヒロシマの立場を各国に伝え、核なき世界に向けた具体策を示すべきだ」と訴え、核兵器廃絶をめざす広島会の森滝春子さん（83歳）は「核被害に国境はない」「軍事支援ではなく、戦争を一刻も早く止める方策を議題に挙げてほしい」と発言。

しかし、長年広島の地から核廃絶を訴えている二人の願いは残念ながら岸田首相には届きませんでした。ヒロシマの地から広島選出の首相が言うべきは「すべての核兵器廃絶」しかなかったはずです。

売上伸ばした『はだしのゲン』

この騒動があつてから、ゲンの人気はうなぎ上り、8月には前年の15倍、コンビニでも販売されるようになりました。因らずも削除しようとした勢力の思惑とは逆に『はだしのゲン』は復活したわけです。国民の危機感も後押ししたのはいうまでもありません。この後、盛岡、郡山、倉敷と各地で公演を重ねました。『はだしのゲン』平和ノート復活」をめざし、今年もしつこく戦争、原爆の現実を語って参ります。共になんばりましょう。

（かんだ かおり）